

フレッシュマン・オカザキのインド通信

～ インドのタクシー事情 ～

お世話になっております。

私事ですが、最近原石に関する仕事をさせてもらう事が増え一日中外にいる事も多くなりました。それにつれ私はどんどんインド人に近づいていってます。(日に焼けて・・・)

前インドメルマガ担当の **Mr.サトー**からは「チベット人や!」とか、「アッサム(北インドの地域。顔が極東人に似ています)から来たのか?」と好き勝手言われています……。**どなたか良い日焼け止め知りませんか・・・?** (笑)

さて、今回はインドのタクシーとそのシステムについてご紹介致します!

毎度インド行くたびに利用しているタクシーですが、その形態は日本とはかなり違います。

**1. 予約制**

基本的にインドでは日本のように街を走っているタクシーをつかまえる、という習慣がありません。一般的なのはタクシー会社に電話をし、どこに何時に迎えに来てほしいか、どこへ行く予定か、そして、車種は何かいいかを伝えます。すると自分の携帯に予約番号や担当ドライバーの携帯電話番号、迎えに来る車のナンバーがSMSで知らされます。後はドライバーと直接連絡を取って遅れてこないようにフォローします(笑)。ここはお国柄、やっておいたほうがいいのは間違いないのですが、だいたいのドライバーは英語がカタコトなので、苦戦します。。とはいっても地名や時間を言うだけなのでぎりぎりなんとかこなしていますが。

なお、これまで利用した感覚では、予約は出発時間の1時間前ぐらいまでを目安に考えておく必要があります。また、オンラインでも予約できスマートフォンアプリもあるので、非常に簡単です。

2. 激化するタクシー配車サービス競争

前項でもご紹介した配車サービスシステム。日本ではあまり目にする機会が少ないですが、インドではこれが一般的で、外資系の参入などで競争もかなり激しいです。各社の特徴を見てみましょう!

・Fast Track (ファストトラック)



チェンナイ最大手のタクシー会社。その最大の特徴は、フリーランスのドライバーが非常に多いこと。ドライバーが Fast Track の従業員というわけではないのです。これは Fast Track が成功している一因でもあるようですが、「Fast Track」と書かれたステッカーや制服の販売も含めて、ドライバーは初期登録費用として 25,000 ルピー(約 5 万円)、ロイヤリティーとして 5000 ルピー/月(約 1 万円/月)を支払えば、コールセンターが得た顧客を紹介してもらえるのです。この方が従業員よりもサービスの質が高い傾向にあり、同時に最大手の看板を背負っているため、利用する側としてはそれなりの安心感もあります。

私もよく利用していますが、フリーで良い運転手に出会ったときは、コールセンターを通さず直接ドライバーに電話をかけて呼び出せる関係を作ると毎回安心して利用することができます。

・Uber (ウーバー)



すでにご存知の方もいらっしゃるかと思いますが、今世界中のタクシー業界に新たな旋風を巻き起こしている、2009 年にサンフランシスコで創立された“Uber”社です。ゴールドマン・サックスやグーグルの投資会社等が出資しており、現在、45 ヶ国 150 都市以上で事業展開しています。日本では東京都心で既存タクシー会社の空車を利用したサービス展開を行っていて、注目を集めています。インドではチェンナイを含む主要都市においてサービスの利用が可能です。Uber はダウンロードした専用アプリを使うことで、マップ上に乗降車位置を事前に指定したり、運転手の顔写真、利用者の評価、ナンバーなどを事前に確認することもできます。決済もキャッシュレス、領収書はメールで受け取れる等、安心して利便性が高い点が評価を受けており、他社に比べて割高ですが、利用者数を爆発的に伸ばしていたようです。

しかし、去年の 12 月デリーで Uber のドライバーが女性客を強姦した容疑で逮捕されました。Uber 側はこのドライバーの現住所や携帯番号を把握していなかったようで、適切な管理がなされていなかったと判断されました。その後 Uber はデリー市内での営業禁止処分を命じられ、実質インドから排除されてしまいました。

・Ola Cabs (オラ キャブス)



こちらも GPS 機能を利用した簡単な予約、完全メーター制、キャッシュレス、領収書のメールサービスなどを行っています。前回の出張で一度利用したのですが、Fast Track の値段の 2/3 程度だったので今後はこれを利用しようと思っています。また、去年の 10 月にソフトバンクの孫正義氏が Ola Cabs に対して 227 億円の出資を行った事で大きな話題となっています。

因みにソフトバンクは他にもインド・インターネットショッピング 2 番手の Snap Deal という会社にも 677 億円を出資し、Ola Cabs と合わせて 1 兆円の出資をしています。また、孫氏は 5 月に開催された決算会見で、元 Google 最高幹部でインド人のニケシュ・アローラ氏を後継者にする意向を発表しましたね。非常に注目が集まっています。



3、オート リキシャー

しかし、配車サービスだけでは急にどこかへ行かなければならなくなった時に予約して、待っていては不便に感じそうですよね。そんな時、インド人はオートリキシャーを使います。リキシャーの語源はご存知「力車」。モーターを載せた力車なのでオートリキシャー。これは日本のタクシーと同じように、街中を走っていて自由に利用することが出来、50 kmでも 100 kmでも快適ではないにしろ、行ってくれます。都市部ではメーターがちゃんとしているものがほとんどです（そのメーターが正常に回転しているのかは別として・・・）。また、北部のニューデリーなどでは、ガソリンではなく公害が比較的少ない CNG（圧縮天然ガス）が主流なようで、南部に位置するチェンナイでは LPG（液化石油ガス）で走っています。

郊外になると少し異なるようで、私は一度ホテルから工場に行くのに利用したことがあるのですが、手を挙げて停まってくれたオートリキシャーにはすでにお客さんが乗っていました。「どこまで行くんだ」と聞かれ説明すると、「乗れ！」とのこと。最終的に目的地の近くまで行くことができ、値段を聞くと 10 ルピー（20 円、4 km ぐらい）でした。これは「タクシー」というより超小型の「バス」のような感覚で、最初に乗ったお客さんとだいたいの方向が一緒ならば乗車することができ、目的地の

だいたい近いところで下してくれる、といった方式のようです。このタクシーとバスの間のような方式は郊外では有効なのかもしれません。ただ、本当は3人乗りであろうオートリキシャーに無理矢理5人乗っていたので、お世辞にも快適とは言えませんでした。。



先の Uber でも触れましたが、**インドでタクシーを利用して事件に巻き込まれるケースは非常に多いようです。チェンナイでは観光客もそこまで多くありませんが、ニューデリーなどでは刃物を突き付けられたり、ドライバーとグルになっている強盗に車を襲わせたりと悪質な被害もかなり出ています。**

ご渡航の際は十分に注意を払い、怪しげな場所には近づかない事をお勧め致します。
私が同行させて頂ければもちろん心配はご無用です！
お考えの方は弊社担当営業員まで！！（必死）

丁場紹介～LK-01～

インド黒目細高級石種でおなじみの **LK-01** の丁場をご紹介します！

類似品も多く出回っていますが、やはりどれもキズ・ムラ等問題が多かったり、採掘が続かなかったりと不安定な丁場ばかりです。もちろん自然の山なので、LK も細目が出なったり薄手であったりと時期によって振れ幅があることは否めません。ですが、**弊社はインド側の援助もあり、良質な時に大量に購入し中国に委託加工しているのです、いまのところ非常に安定して生産できています。**

インドは広く掘っている丁場が多いのですが、LK-01 はそこまで広さより深さが圧倒的にあります。それ故に LK-02、03 と目の大きさに違いはあれど、目合い色合いが大きく変化することはありません。



↑○が堀口。深さがあるので
クレーンを使って採掘しています。



↑水を流しながら目合いを確認します。
でなければ反射して見えません。



←どちらも LK-01 ですが中でも左は超細目、
右が細目と分かれています。

LK-01 はインド黒石種の中でも高価な石種ですが 値段に見合った雰囲気と
目合い、色、ツヤともに正真正銘の高級材と言えます。

インド加工・中国加工どちらも使える石種なのでまだ扱ったことのない方も
是非一度 サンプルのお取り寄せを！

では今月はこの辺で失礼いたします！ 2015/07/01 オカザキ